

## 平成26年度「ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業」実施報告書

### 会津若松ザベリオ学園高等学校

#### 実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成27年3月14日～3月26日までの13日間、1～2年生38名が2グループに分かれ、イギリスのコヴェントリーとスワネッジにホームステイしました。コヴェントリーに滞在した生徒たちはキングヘンリー8世スクールと交流し、スワネッジに滞在した生徒たちはインターナショナルカレッジ“ハローハウス”にて研修をしました。

#### 実施概要について

##### <コヴェントリー>

生徒は2名ずつ各ホストファミリー宅にお世話になりました。平日の朝はホスト校で基本的な英会話やイギリスの歴史・文化について学習しました。そのうちの2日は、それぞれロンドンとオックスフォードに出向いて研修をしました。週末には各ホストファミリー宅で過ごし、交流を深めるとともに、英語でのコミュニケーションの力を高めました。

##### <スワネッジ>

語学学校ハローハウスにて平日の午前中は、テストによって分けられた習熟度クラスで英語の授業を受けました。未来形の使い分けや発音記号、早口言葉など楽しみながら英語の内容を深く学ぶことができました。平日の午後の時間はアクティビティに参加し、現地のスタッフや他国から来ている生徒と交流を行ないました。コーフ城の見学では、歴史をクイズ形式で学びました。他国の生徒とも同じグループになり、日本語を教えるなど積極的にコミュニケーションをとりました。また、イギリスで働く日本人から、どうしてイギリスで働くようになったのか、イギリスと日本の違いなどお話ししていただく機会があり、自分の将来について考える機会になったようです。

授業後は各家庭に2名ずつホームステイをしました。休日は、ホストファミリーと海に行ったり自分たちでバスに乗りボーンマスに行ったり、現地の人とも積極的に英語でコミュニケーションをとりました。

#### 福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

別紙参照[1][2]



#### 実施後の成果について

##### <コヴェントリー>

ホスト校の先生方や生徒の献身的なサポート、およびホストファミリーの助けもあり、生徒たちは楽しく有意義に研修を終えることが出来ました。また福島県の現状と復興への取り組みについても、十分に理解してもらえたようです。現地は、雪も降らず地震などの災害もないため、ホスト校の生徒たちに関心を持ってもらいました。

##### <スワネッジ>

ホストファミリーと一緒に過ごすことで英語を使うことに少しづつ自信を持ち、イギリスと日本の文化の違いを学ぶことができました。また、他国からの生徒とも積極的にかかわることで英語でのコミュニケーション力を高めました。福島の現状を伝える活動では、学校での事前の練習もあり、大人の前でもきちんと英語で発表することができました。現地におけるエネルギー学習では、実際に街を歩いて聞いたり見たりすることができて、日本との違いをよく理解できました。

## 別紙[1]

### <コヴェントリー>

#### ○福島の発信について

(1) 研修の第7日(3/20(金))に、7年生の学年集会でホスト校の生徒・教員に対し、次の内容についてプレゼンテーションを行いました。

- a) 東日本大震災における福島県の被害状況
- b) 原発事故と放射能汚染の状況
- c) 復興に向けて(除染と風評被害との戦い)

津波については写真で、放射能汚染や人口・農産物生産高の推移については図やグラフを、除染や農産物の放射能検査の様子は写真を多用し、プロジェクターを使って出来るだけ視覚に訴える形で説明を行いました。

原発事故の部分では、やや専門用語が生徒たちにとって難しかった部分もありましたが写真で説明したことで、集まった生徒の興味・関心を引きつけることができました。津波の部分では、写真を見て思わず声を上げる生徒もでるなど、福島県が災害に負けず復興に向けて頑張っていることは十分に伝わったと感じています。

(2) 研修の第10日(3/23(月))に、ホスト校に併設の小学校4年生・5年生・6年生の学年集会で生徒・教員に対し、次の内容についてプレゼンテーションを行いました。

- a) 会津若松市の紹介
- b) 会津の農産物・民芸品の紹介

鶴ヶ城のマッピングやろうそく祭りを取り上げ、写真を使って説明をしました。農産物では、すべての放射能検査を行っていることを紹介し、福島県だけでなく日本全体が震災に負けず復興に向けて頑張っていることをアピールしました。

#### ○環境問題についてのリサーチおよびディスカッション

研修の第7日(3/20(金))の授業で、午前中に次の内容を取りあげ、コヴェントリーにおける省エネと環境に優しい取り組みについて学びました。

- a) 公共交通のあり方について
- b) ゴミの分別について
- c) オーガニック商品について

3/21(土)・22(日)の週末を利用して、ホストファミリーに対し環境問題についてインタビューをする課題に取り組みました。月曜日の授業で、その結果について授業で発表し合い、話し合いを通して理解を深めました。

## 別紙[2]

### <スワネッジ>

#### ○福島の現状を伝える活動

3月23日（月）15時半より、他国から来ている生徒（大学生以上の人が多い）やスタッフ約35名の前で福島県の現状を伝えるプレゼンテーションを行いました。3グループに分け、「震災と現在の状況の違い」「放射能の状況、福島県は安全だということ」「福島、会津の魅力」を英語で発表しました。

約30分の発表でしたが、真剣に聞いてくださり、福島について興味を持ってくれた様子がみられました。プレゼンテーション後には「良い発表だった」「福島について考えさせられた」とお褒めの言葉を頂きました。

#### ○現地におけるエネルギー学習等について

3月23日（月）の授業では、習熟度別の英語のクラスでそれぞれ環境について話し合いました。1つのクラスでは、このままの暮らしをあと何年続けると南極の氷が解けてしまうのか計算し、1つのクラスでは、スワネッジの海に近く風を遮る高い建物がない環境から風力発電に適している、と学びました。イギリスだけでなく、他国から来ている生徒（ドイツ、ロシア、スイス）とともに考えることで、日本が一番二酸化炭素を多く排出していることに気づき、電気をつけっぱなしにしないことや、車の使用する回数を減らすことなど自分たちにできることを考えました。

3月24日（火）の授業では、実際に街に出向きチャリティーショップを訪ねリサイクルについて店員にインタビューしたり、スーパーでは環境に優しい栽培方法で作った野菜と、農薬を使った野菜の値段を比べたりしました。イギリスではゴミの分別を細かく行い、多くのゴミがリサイクルできることを学びました。